

ぶどう枝彫病の薬剤防除法

[ 要約 ]

ブドウ枝彫病の発生抑制のための薬剤防除は、休眠期（発芽直前）にチウラム・チオファネートメチル水和剤50倍、生育期の5月下旬～7月上旬の4回の防除時期に、フルアジナム水和剤2,000倍、ジチアノン水和剤1,000倍、マンゼブ水和剤800倍、チオファネートメチル水和剤1,000倍を用いることが有効である。

三重県農業技術センター伊賀農業センター果樹担当 連絡先 0595-37-0211

部会名	果樹	専門	作物病害	対象	果樹類	分類	普及
-----	----	----	------	----	-----	----	----

[ 背景・ねらい ]

ブドウ枝彫病は、近年九州地方を中心として大きな被害が認められ問題となっている病害であり、本県においても発生樹のある園を確認した。これが広まれば、産地としては極めて大きな問題となる。そこで、本病害に対する体系的な薬剤防除技術を確立する。

[ 成果の内容・特徴 ]

- ①休眠期（発芽直前）には、チウラム・チオファネートメチル水和剤50倍とチオファネートメチル水和剤50～100倍の防除効果が高い（表1）。
- ②5月下旬～7月上旬の生育期には、散布時期にかかわらずチオファネートメチル水和剤1,000倍、フルアジナム水和剤2,000倍及びジチアノン水和剤1,000倍の防除効果が高い（表2）。また、マンゼブ水和剤800倍は、低い防除効果がある。
- ③以上の結果と農薬の安全使用基準の点から考えると、次の防除体系が枝彫病防除に有効である。

休眠期（発芽直前）	チウラム・チオファネートメチル水和剤50倍
生育期 5/下～6/上（開花前）	フルアジナム水和剤2,000倍
6/中（落花後）	ジチアノン水和剤1,000倍
6/下（果粒肥大期）	マンゼブ水和剤800倍
7/上（袋掛け前）	チオファネートメチル水和剤1,000倍

[ 成果の活用面・留意点 ]

- ①枝彫病発生地域における防除法として利用できる。
- ②粗皮削り等の耕種防除を併せて行うことが重要である。

[ 具体的データ ]

表1 枝彫病に対する休眠期散布薬剤の防除効果及び無散布区の発病新しょう率

薬剤名	濃度	防除値*				平均
		元年	2年	3年	4年	
①チオファネートメチル水和剤	50倍	70.2	52.1	35.1	74.2	57.9
②チオファネートメチル水和剤	100倍	94.0	41.7	—	—	67.9
③ペノミル水和剤	200倍	65.5	41.7	-2.7	33.0	34.4
④チウラム・チオファネートメチル水和剤	50倍	93.5	64.6	83.8	12.4	63.6
無散布区の発病新しょう率(%)		25.9	17.5	14.2	36.2	—

\* 防除値=100-(処理区の発病度/無散布区の発病度)×100

調査日 元年10/12 2年8/27 3年8/5 4年8/11

表2 枝彫病に対する生育期散布薬剤の防除効果及び慣行防除園の発病新しょう率

薬剤名	濃度	時期*	慣行防除に対する防除値*			
			2年	3年	4年	平均
①チオファネートメチル水和剤	1,000倍	前期	68.8	83.8	100.0	84.2
②チオファネートメチル水和剤	1,000倍	中期	70.8	91.9	100.0	87.5
③チオファネートメチル水和剤	1,000倍	後期	75.0	70.3	100.0	81.8
④フルアジナム水和剤	2,000倍	前期	—	97.3	88.7	93.0
⑤フルアジナム水和剤	2,000倍	中期	—	89.2	86.6	87.9
⑥フルアジナム水和剤	2,000倍	後期	—	91.9	83.5	87.7
⑦マンゼブ水和剤	800倍	全期	58.3	—	—	58.3
⑧ジチアノン水和剤	1,000倍	全期	—	75.6	88.7	82.2
慣行防除園の発病新しょう率(%)			17.5	14.2	36.2	—

\* 前期:2、3年-5/下、6/中、6/下。4年-5/下、6/中。中期:2～4年-6/中、6/下。

後期:2、3年-6/中、6/下、7/上。4年-6/下、7/上。全期:5/下、6/中、6/下、7/上。

\* 慣行防除に対する防除値=100-(処理区の発病度/慣行防除園の発病度)×100

調査日 2年8/27 3年8/5 4年8/11

\* 5/下:マンゼブ600倍 6/中:ポリカーバメイト800倍+イプロジオン1,000倍

6/下:マンゼブ800倍 7/上:ポリカーバメイト800倍

[ その他 ]

研究課題名:ブドウ枝彫病に関する研究

予算区分:県単

研究期間:平成4年度(平成元～4年)

研究担当者:伊藤 寿、輪田龍治

発表論文等: